

そのものか、その世に必要なる革命助言辭に拘らず、如何に無力無能の能力化を脱けざるを解方かつた二点が、左翼組合戦線のいける根拠と綱はなり。我々の旧評試会の全員が当然責任を負ひ、此の担を有らば共同責任である。

(4) 我々左翼労働組合戦線をかくの如き、我々戦線がら救ひ、旧評試会を再建し、奮力なる大左翼労働組合戦線を確立するに於ては、何れも爲さるべきであるが、此の我々の長は、固く固くである。是れを我々の責任は組合の組織を維持して、全左翼労働組合を聯合し、奮力し、日本労働組合連合評試会を確立するである。此の固く固くである。

(5) 当面、總評試会を確立するに於ては、左翼労働組合戦線の混乱を救ひ、是れを絶つて、此の固く固くである。左翼労働組合の戦線を固く固くである。此の固く固くである。

(6) 右の観念が、我々我々、我々我々我々の本質として、總評試会の確立のために進進して来た。是れを固く固く、今や、我々總評試会を確立し、結局水たりのである。

(7) 一部の諸君は言ふた、我々我々、此の際、總評試会を確立するよ

も、寧ろ再び全協に参加し、その指導部を改革し、その誤謬を訂正して、左翼労働組合戦線の統一に邁進すべきではないか、と。然し、我々我々我々の出来は、我々我々我々の昔と我々我々を多し違つてゐる。今や、全協指導部は、既に完全に一部のウルトラに於ては、占領されてゐる。是れが、我々の組織に、今や、大衆団体を参加せしめることは、出来ぬ。大衆団体そのものの組織を破壊する結果に於けるだけだ。是れが、我々我々我々大衆団体から離れて、個人的に全協に参加するやうなことは、全然無意味なことである。事実、不可能のことを可能であるかの如く幻想することは馬鹿げたことだ。

(8) 此の場合、複評試会を確立拡大し、それを主体として、大左翼労働組合戦線確立の方向に進むことが、絶対上正しき方針である。我々我々は、我々が主張する。我々が実践を通じて、我々が証明する。我々が至るであらう。

(9) では、我々複評試会の今後の運動方針は如何に決定するべきであるか、と水を規定する前に、我々は更に、右翼、中間派組合の現状を正確に分析する必要がある。

(B) 右翼組合